

学 位 論 文 題 名

ON THE ROLE OF PEDESTRIAN SPACE
IN REORGANIZATION
OF WINTER CITY-HARBIN-CENTER

(冬都市ハルビンの都心再編における歩行者空間の計画的役割)

学位論文内容の要旨

過去数世紀、人間の生活は温暖な地から寒冷な地へと移ってきた。二十世紀の末には、寒冷地域の居住人口は約20億になった。このような発展過程の中で、寒冷地域に位置する都市（冬都市）特に発展過程にある冬都市に対しては、既存の都市像を追求する方向性から、冬都市特有の問題も含め環境問題などに対応する都心再生の枠組みを再構築する必要にせまられている。本論文は発展途上の冬都市ハルビンに着目し、ハルビンの都市計画の変遷過程、特に中心市街地の歴史的コンテキストと計画的意味の変化を整理し、さらに、中心市街地の歩行者空間の利用実態調査を踏まえて、都心空間の再編における歩行者空間の計画概念と計画理論について地区、街区、建築群のスケールで論考することを目的としている。

本論は6章から構成されており、各章の内容と成果は次のように要約できる。

第一章では、本論文の序論であり、研究の背景と目的を述べ、本論文の構成を示すと共に、歩行者空間に関連する既往の研究を概説し、本論文の位置づけを明確にしている。

第二章では、ハルビンの創成期から今日に至るまでの歴史的変遷に対して、中心市街地における歩行者空間の形成過程と計画的意味を都市の構成論の変遷を通じて分析した。

ハルビンの都市環境の形成は、ロシア時代の都市計画期、日本時代の都市計画期、さらに中華人民共和国による、新たな都市計画期の三つの時期に分類される。ロシア時代に、ハルビンは単なる植民地の居留地ではなく、ロシアの極東経営の拠点都市であった。都市計画に当たっては中東鉄道関係施設と宗教施設の配置が考慮されており、都市市街地（鉄道専用地）の中に、三つの区（道里区、南岗区、香坊区）が形成された。その三つの区の建設とともに、市街地外で、中国人が集まっていた道外区も形成された。さらに、二つの中心市街地が道里区と南岗区内に道里商業中心と南崗商業中心として整備された。日本時代になると、ロシア時代の都市基盤を継承しつつ、都市市街地が拡大し、道外区も市街地化され、そこにもう一つの中心市街地が形成された。1949年新たな中国の誕生から、都市建設は活発化した。特に八十年代になって、さらにもう一つ中心市街地が南岗区に形成され、全部で四つの中心市街地が形成された。計画的視点としては景観の重視、歴史的建築物との一体化といった空間の質的要因を重視するようになった。以上より中心市街地の継承という時間的・計画的履歴がハルビンの歩行者空間を考える上で重要な視点であることを明らかにした。

第三章では、ハルビンにおける近年の急激な都市変容と歴史的な地域を保存する中でつくられた、多数の歩行者空間（歩行者専用道、広場、地下商店街、公園）を取り上げ、現時点における歩行者空間の特徴、性質、利用者・計画

者の評価を捉えるために、歩行者空間の実態と役割の調査を行った。

調査は以下三つの方法をとった。①現地調査：歩行者空間の構成と利用状況を調べる。対象はハルビンの中心市街地及び周辺地域における主な歩行者空間である歩行者専用道、広場、公園などの十二箇所を対象とした。②ヒアリング：近年のハルビンにおけるアーバンデザインの方向性と歩行者空間に関連する歴史的環境再整備事業及びハルビンにおける既存歩行者空間に対する評価について、計画担当者、学識経験者及び住民と来街者に対するヒアリングを行った。③アンケート：歩行者空間に対する評価、満足度、及び必要性などの問題に関して、ハルビンにおける代表的な歩行者空間の中央通とソフィア広場において行った。

その結果として、現地調査から：①都心部の再開発のプロジェクトは歴史的な建築を中心として組み込み、建築価値、文化価値、経済価値と歩行者空間を関連づけて、整備していること、②歩道も重視され、多数の道路が拡幅され、緑地帯を持つ“景観通り”が整備されたこと、ヒアリングより：③人間の行為を重視した市民活動の場としての計画的視点が設定されていること、④歩行者空間を整備する上で、持続可能な開発と都市環境を重視するという計画理念をもっていること、アンケートより：⑤住民のニーズは物理的に整備された歩行者空間だけではなく、心理的に快適な歩行者空間に対する要求が強い。具体的には色彩への配慮、にぎやかな雰囲気、人々に対して親切的空間などが冬都市における歩行者空間の重要な要素と評価している。しかし同時に、気候防護施設は未だ不十分であるとマイナスの評価をしていることが抽出された。以上より、ハルビンにおける都心部の歩行者空間の実態として、周囲の建築との関係、利用者の行為が重視されていることと、それに対する利用者の評価が心理的なものを重視する傾向にあることを明らかにした。

第四章では、発展した冬都市における既存の歩行者空間と天候から人間を守る防護施設を題材として、ハルビンに対する経済的側面、環境的側面より、その問題点を考察するため、冬都市におけるデータ（エネルギー消費量、環境負荷量、及び防護施設のコスト）、ハルビンの計画責任者に対するヒアリングを通して分析した。その結果として、①大規模的な気候防護施設はコストと維持費が高いので、強い経済力が必要である。②冬都市に於けるエネルギー消費量、二酸化炭素などの排出量により、都心交通を考え直さなければならない状況にある。③ハルビンは「生態的な都市」を目指して、緑地と水辺環境を積極的に整備している。という三点を抽出し、これからのハルビンにおいて、大規模的な気候防護施設を建設することが必ずしも第一の方向性ではないことを指摘した。

第五章では、冬都市の歩行者空間を人間の活動的側面よりその問題点を考察した。第三章の調査における、住民のヒアリング・アンケートより、①健康的な北方生活、②積極的な北方生活、③計画への住民の積極的参加の三点を明らかにした。冬都市に於ける住民の生活様式とニーズの変化に伴い、室外の活動割合は増加している。室外活動を楽しむ冬都市に適応した歩行者空間整備という概念は今後の計画論を支える一つの方向性と考えられる。また、ハルビンにおける、住民参加のまちづくりは初動期であるが、住民のニーズを計画にどのように反映させるかは計画論として重要な課題であり、既に導入された重要なプロジェクトへの住民参加の内容と仕組みをさらに充実させる必要があることを抽出し、住民の生活や活動を考慮した計画づくりが都心再編を実現させる方向性であることを提言している。

第六章は、本論のまとめであり、各章の要約と本論の結論ならびに残された課題を整理している。地区の性格、歴史的資源の位置づけという時間軸、交通、エネルギーという環境軸、健康的な北方生活という生活軸の三つの軸を柱に、ハルビンの四つの中心市街地における歩行者空間の役割を検討し、冬都市の都心再編における歩行者空間の計画的役割を以下の諸点に整理している。①歴史的な地域における、歩行者空間整備は歴史的な遺産の保存に対しても、重要な役割をもつ。②また、歴史的な地域における歩行者空間整備は、地方の文化と経済再生にもつながる手段である。③自動車をもたらす環境に対する負荷を低減し、持続可能な発展を可能にするという点から、冬都市の中心市街地における歩行者空間の整備の方向が検討される必要がある。④歩行者空間の整備は北方生活の活性化の手段である。

⑤住民参加のまちづくりは生活・活動面を重視した今後の歩行者空間の構築の重要な要素である。⑥多種の規模、機能と形態で歩行者空間を構築する必要がある。以上、今後の冬都市の都心再編における歩行者空間は、時間軸、環境軸、生活軸を重視した計画的視点を持つことが重要であると総括した。

今回研究した冬都市の都心再編に於ける歩行者空間の計画的役割を実現化していく過程は今後の研究課題と言える。

学位論文審査の要旨

主 査 教 授 小 林 英 嗣

副 査 教 授 繪 内 正 道

副 査 教 授 角 幸 博

学 位 論 文 題 名

ON THE ROLE OF PEDESTRIAN SPACE IN REORGANIZATION OF WINTER CITY-HARBIN-CENTER

(冬都市ハルビンの都心再編における歩行者空間の計画的役割)

過去数世紀、人間の生活は温暖な地から寒冷な地へと移り、20世紀末には寒冷地域の居住人口は約20億になった。このような中で寒冷地域に位置する都市(冬都市)、特に発展過程にある冬都市では、都市の近代化に適応された都市空間像を追求する方向性から、冬都市特有の問題に対応する都市空間を再生する政策と計画の枠組みが重要となる。

本論は発展途上の冬都市ハルビンに着目し、特に都心部の歴史的コンテクストと計画的意味と目標の変化を整理し、21世紀の都心空間の再編、特に歩行者空間に必要な政策の方針と計画の概念と理論について、地区、街区、建築群の各次元から論考することを目的としている。

本論は6章から構成されており、各章の内容と成果は次のように要約できる。

第1章では、本論文の序論であり、研究の背景と目的、方法を述べ、本論の構成を示すと共に、冬都市の歩行者空間に関連する既往研究を整理し、本論の位置づけを明確にしている。

第2章では、ハルビンの創成期から今日までの歴史的変遷、特に中心市街地の形成過程と計画的な意味と内容を都市の構成論の変遷を通じて分析した。

ハルビンの都市形成は、ロシア時代、日本時代さらに中華人民共和国による都市計画期の3期に区分され、ロシア時代は極東経営の拠点都市として、中東鉄道関係施設の配置が重視されつつ、鉄道で囲まれた市街地は三つの区(道里区、南岗区、香坊区)が建設され、中国人居住地・道外区は鉄道施設外に形成され、中心市街地は道里区と南岗区内にそれぞれ整備された。日本時代は都市市街地が拡大し、道外区に中心市街地が形成され、1949年以降の新中国時代の都市建設は活発化によって'80年代には南岗区の中心市街地が発展し、景観や歴史的建築物の重視などの都市の質が重視され始めたことを指摘している。ハルビンの都心再生では中心市街形成における歴史的そして計画的な履歴の継承が、歩行者空間の整備方策を考える上で重要な視点であることを明らかにした。

第3章では、ハルビンにおける近年の急激な都市変容と歴史的地域の保存整備過程でつくられた、多数の歩行者空間(歩行者専用道、広場、地下商店街、公園)を取り上げ、歩行者空間の実態調査から、空間の特徴、性質、利用者・計画者の評価を行なっている。i)空間調査(12箇所)、ii)ヒアリング(行政計画担当者、学識経験者及び住民と来街者)、iii)アンケート(利

用者)の分析・考察から、①市は都心再開発プロジェクトにおいて、都心の歴史性を重視し、建築価値、文化価値、経済価値と関連づけた計画整備、②歩行者の環境も重視され、街路拡幅や緑地帯を持つ“景観通り”の計画整備、③都市生活と市民活動を重視した計画的視点、④持続可能性と環境性の重視、⑤住民の歩行空間へのニーズにおける物理面と心理面の快適性の並存などを把握し、ハルビン都心部の歩行者空間に対する整備の方向性を計画者側と利用者側が共有しうる方向性を指摘している。

第4章では、冬の気候から人間を守る歩行者空間の防護施設の整備内容と手法について、20世紀中後半に計画整備された冬都市とハルビンを経済的側面と環境的側面から比較・考察を行ない、①大規模的な気候防護施設の建設と維持に必要な自治体の経済力、②エネルギー消費、二酸化炭素排出などの環境要因からの大規模な冬都市の都心交通体系の再考、③ハルビン市の都市政策理念(環境都市)を担保する総合的な都市計画の必要性、を指摘し、都心空間の再編整備計画上の重要な政策方針として、‘ハルビン都心部の歩行者空間では大規模的な気候防護施設を建設することは21世紀の都市政策的な方向ではないこと’を指摘した。

第5章では、市民のヒアリング・アンケートより冬都市ハルビンの歩行者空間計画の方向性と視点は‘健康的な北方生活’、‘積極的な北方生活’、‘計画への住民の参加’の三点であること指摘し、冬都市ハルビンにおける住民の生活様式とニーズの変化傾向から、①冬の活動に適応した歩行者空間は今後の都心再編の計画を支える重要な都市基盤である、②初動期にある参加・協働型によるハルビン都心づくりの計画論の確立・充実・普及の重要性、③市民の都心での生活と活動を考慮した計画内容が都心再編の基軸であること、を導き出している。

第6章は、本論のまとめであり、各章の要約と本論の結論ならびに残された課題を整理している。形成過程や歴史的資源の位置づけなどの時間軸、CO₂やエネルギーなどの環境軸、冬都市のライフスタイルという生活軸を複合した計画的視点の意味と重要性を指摘し、冬都市ハルビンの都心再編における歩行者空間の計画的役割は、①建築を始めとする歴史的資源の保全・活用による都市文化の構築、②歴史的コンテキストが組み込まれた都心空間整備による都市産業の構築と経済再生、③歩行者空間の整備を契機とした計画施策の体系化により環境負荷が低減した持続可能な生態的都市への展開、④ウインターライフとQOL(クオリティオブライフ)を目標とした総合的な都市政策への連動、⑤住民参加のまちづくり方法の確立など、今後の冬都市の都心再編における歩行者空間は、時間軸、環境軸、生活軸により、新たな都市づくりの観と論の構築へと結びつくとして総括している。

これを要するに、著者は冬都市を生態的都市へと転換する重要な動因を明らかにすると同時に、発展途上の大規模な冬都市における計画的視点と気候防護施設の方向性を提示したものであり、都市計画学、北方都市デザイン学、計画行政学に貢献するところ大なるものがある。よって筆者は、北海道大学博士(工学)の学位を授与される資格があるものと認める。